

土木工学・建築学委員会
都市・地域デザインの多様なアプローチ分科会（第25期・第6回）
議事要旨

日時 2021年11月18日（木）10:00～12:00

会場 遠隔会議

出席者

池邊 このみ・佐々木 葉・赤松 佳珠子・小野 悠・斎尾 直子・田井 明・竹内 徹・
船水 尚行・古谷 誠章・増田 聡・南 一誠・三輪 律江・村上 暁信・山田 あすか・
山本 佳世子（18名中15名出席）

議題および決定事項

議題1) 委員からの話題提供

池邊委員から「異分野融合によるQuality Infrastructure時代へ」と題して、公園・団地・街路樹・墓地等の再生に関わる実務、インフラ整備・維持管理の国際的な考え方の違いについて紹介があり、人口減少社会におけるQuality Infrastructureについて問題提起がされた。生態系も含めたインフラの多機能性や価値、社会的便益をいかに高められるのか、公園緑地・道路・下水道といった部門間の協働や市民参加の重要性について議論が行われた。

議題2) 取り組むテーマについて

分科会の今後の進め方について意見交換がなされ、以下のような意見が挙げられた。

- ・24期のクロノデザインから展開し、時間価値をどう考えるのか、実際の空間に落とし込んで考える。
- ・東日本大震災からの復興事業について、デザインという観点から検討していくことも考えられるのではないか。社会学委員会の分科会との連携の可能性はないか。
- ・デザインとは何か、多様な分野の人に渡せるような冊子があると、インフラやデザインの価値を高めることにつながっていくのではないか。
- ・デザインは機能にプラスアルファするお化粧だと思われている。機能を満足させようとするデザインがダメになり、デザインを頑張ると機能がダメになる、環境に配慮するとデザインが落ちる、など二項対立、分捕り合戦の認識を持っている学生が多い印象。そうではないことを伝えたい。
- ・新しくつくる時代ではなく、リニューアルの時代。様々な専門分野が協働すること

でより良いものができるという視点が重要ではないか。

- 建築や道路など単体としての再生ではなく、都市としていかに再生していけるのか、情報など新しい技術をそこにいかに入れ込めるのか、再生のデザインを考えることが大切。
- アートとデザインは違う。50年、100年残るデザインとは何か。
- 意思決定の結果がデザインに表れている、空間の質に表れている、この風景が何を問いかけているのか、という視点が重要ではないか。
- 対象は何か。専門家によるものだけなのか、それとも一般の方が作り上げたものも入るのか、あるいは、空間だけなのか、コミュニティも含むのか、など検討が必要。
- 良いデザインを公募して、分科会で審査のようなものを通じて良いデザインとは何か議論するというやり方もあるのではないか。
- デザインの概念、必要性、価値を見出していくための手引きのようなものがあるといい。
- デザイン経営などデザインという言葉が幅広く使われるようになっている。「デザインする」ということにどのような意味があり、それがインフラ、社会、組織などでどうつながるのか整理できるといい。
- 公共施設は安くつくるべき、華美であってはならない、という考え方が根深い。良いものは長く使われるので結果的に費用対効果が高く、地域の魅力を高めるということが理解されない。
- 学校のデザイン教育で、デザインに対する苦手意識をもつ子どもが少なくない。
- デザインが社会をもっと良くするということを発信したい。
- どこに向けて発信するのか。教育現場、行政、市民、学生なのか。
- 価値観が既存のデザインにどのように練り込まれているのかを検証することも必要ではないか。
- この分科会の委員の中でも「デザイン」という言葉を使うときにイメージしているものは違うのではないか。共通点と相違点を見える化することで、概念の広さを示せるのではないか。
- 「クロノデザイン」の書籍において取り上げられている事例写真について、どの点がクロノデザインなのか、よく分からなかった。各著者がどの点をクロノデザインと考えているのか、そこから見えてきた課題や気づきから議論を始めてもいいのではないか。
- 「クロノデザイン」は著者全員が同じ認識で議論したというよりは、クロノデザインを切り口に建築・都市・土木をもう一度議論してみようという趣旨であった。
- デザインとは何かを一括りにする必要はない。デザインにまつわるアレルギーや抵抗感、誤解をいかに乗り越え、社会に実装したのか、あるいは実現できなかった

か、という委員のエピソードを共有してはどうか。

- 世の中にデザインがもっと生き生きと広がるように、委員のエピソードを出し合っ
て、違いを可視化するというアウトプットの方向性が見えてきたのではないか。
- 国交省もミズベリングなどを展開しており、何を乗り越えてきたのか、話を聞くこ
とも考えられる。

議題3) 今後の予定

次回、第7回は、2022年1月24日(月) 10:00-12:00に開催する。

それまでに、分科会での取り組みテーマについて今回の議論を踏まえて検討し、引き続き
議論をおこなう。